

令和5年度 第1回

希望郷いわてモニターアンケート

地域福祉に関する意識調査  
報告書

令和5年7月

岩手県保健福祉部地域福祉課

# I アンケート調査の概要

## 1 調査課題名

地域福祉に関する意識調査

## 2 調査の目的

県では、「互いに認め合い、共に支え合いながら、誰もが安心して暮らし、幸福を実感できる地域社会の実現」を基本理念に掲げ、平成 21 年3月、「岩手県地域福祉支援計画」を策定し、社会福祉制度や地域の状況変化を踏まえて5年おきに計画を見直ししながら、「ソーシャルインクルージョン」の考え方を基本方針として、地域共生社会の実現に向けて取組みを進めています。

本調査は、今後の地域福祉に関する施策の参考にするとともに、今年度策定を進めている、第4期計画の基礎資料とするため実施したものです。

## 3 調査期間

令和5年6月8日(木)から6月 22 日(木)

## 4 調査方法

調査票を郵送し、郵送及びインターネットにより回答

## 5 調査対象

令和4・5年度希望郷いわてモニター 198 名

## 6 回答者数

153 名

## 7 回答率

77.3%

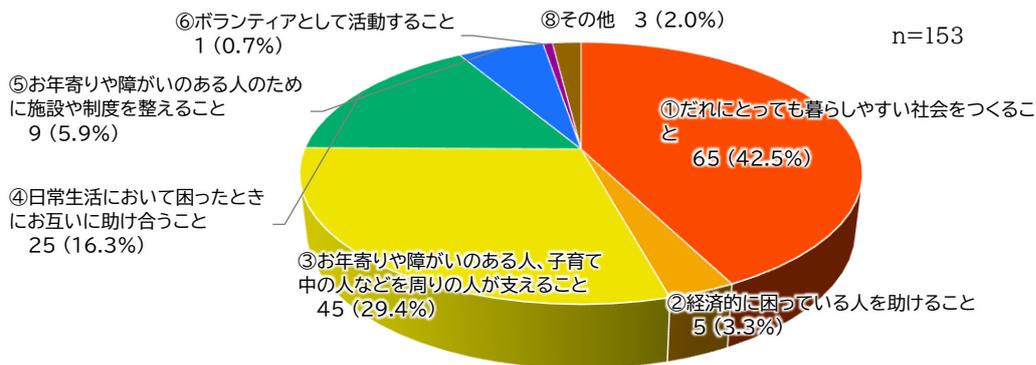
回答者の性別・年代別の内訳

性別・年齢		モニター数	回答者数	回答率
男	20～39 歳まで	17 名	13 名	76.5%
	40～59 歳まで	32 名	18 名	56.3%
	60 歳以上	42 名	39 名	92.9%
	小 計	91 名	70 名	76.9%
女	20～39 歳まで	28 名	16 名	57.1%
	40～59 歳まで	35 名	28 名	80.0%
	60 歳以上	44 名	38 名	86.4%
	小 計	107 名	82 名	76.6%
その他・答えたくない		0 名	1 名	—
合 計		198 名	153 名	77.3%

## II アンケート調査の結果

問1「地域福祉」という言葉から、どのようなイメージを受けますか。イメージに最も近いものを1つ選んでください。

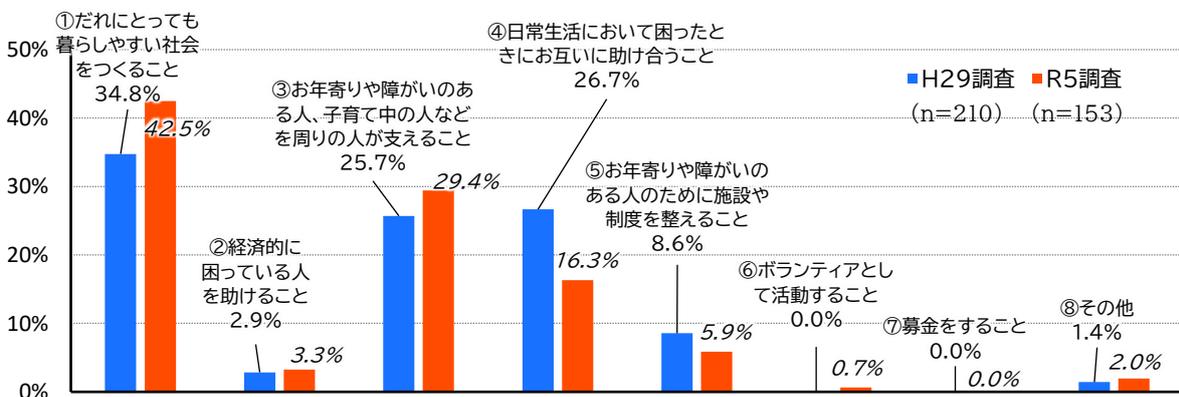
選択肢	人数	(割合)
①だれにとっても暮らしやすい社会をつくること	65	(42.5%)
②経済的に困っている人を助けること	5	(3.3%)
③お年寄りや障がいのある人、子育て中の人などを周りの人が支えること	45	(29.4%)
④日常生活において困ったときお互いに助け合うこと	25	(16.3%)
⑤お年寄りや障がいのある人のために施設や制度を整えること	9	(5.9%)
⑥ボランティアとして活動すること	1	(0.7%)
⑦募金をすること	0	(0.0%)
⑧その他	3	(2.0%)
合計	153	(100.0%)



### ●その他(自由記載)

地域によって異なる公共の課題について相互に助け合うこと  
 経済的・身体的・精神的に困難を抱えている人を支援すること  
 その地域特有の問題を解決するための福祉政策

### --【参考】前回調査との比較--



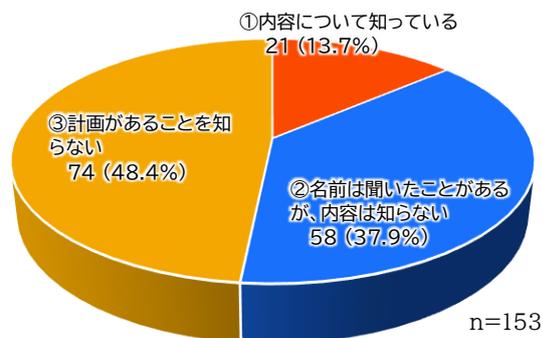
**【調査結果】**

「地域福祉」という言葉に対するイメージについて聞いたところ、「だれにとっても暮らしやすい社会をつくること」、次いで、「お年寄りや障がいのある人、子育て中の人などを周りの人が支えること」が多くなっており、いずれも前回(平成 29 年度)アンケートから増加した。一方、「日常生活において困ったときにお互いに助け合うこと」が前回から 10.4 ポイント減少し、「お年寄りや障がいのある人のために施設や制度を整えること」も減少した。

「地域福祉」の捉え方が、困りごとに対して個別的に制度面での支援を行うという視点から、困り事を抱える人を周りが支えるという「地域共生社会」の推進へと認識が転換してきているものと推察される。

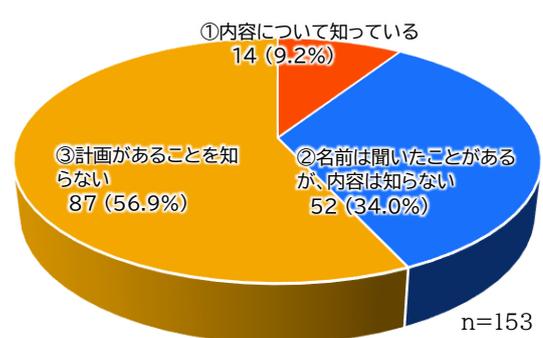
問2 お住まいの市町村の「地域福祉計画」について御存知ですか。あてはまるものを1つ選んでください。

選択肢	人数	(割合)
①内容について知っている	21	(13.7%)
②名前は聞いたことがあるが、内容は知らない	58	(37.9%)
③計画があることを知らない	74	(48.4%)
合計	153	(100.0%)



問3 「岩手県地域福祉支援計画」について、御存知ですか。あてはまるものを1つ選んでください。

選択肢	人数	(割合)
①内容について知っている	14	(9.2%)
②名前は聞いたことがあるが、内容は知らない	52	(34.0%)
③計画があることを知らない	87	(56.9%)
合計	153	(100.0%)



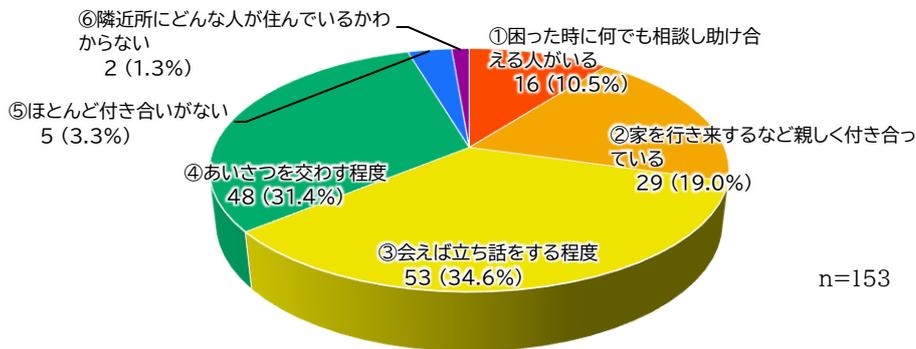
**【調査結果】**

市町村地域福祉計画及び岩手県地域福祉支援計画の認知度について聞いたところ、市町村計画は半数を超える認知度であったが、県支援計画については、半数以上が「計画があることを知らない」と回答しており、計画そのものの周知という課題が浮き彫りとなった。

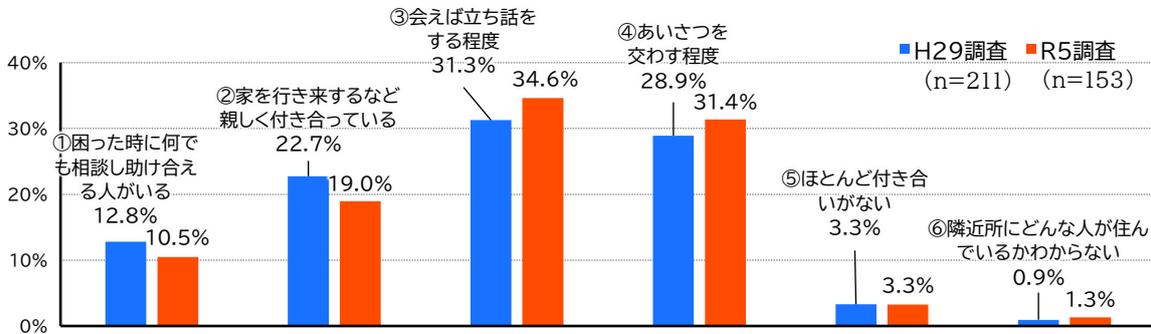
≪参照 ⇒本報告書p22-24 問 17 回答≫

問4 近所の方との程度のお付き合いをしていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

選択肢	人数	(割合)
①困った時に何でも相談し助け合える人がいる	16	(10.5%)
②家を行き来するなど親しく付き合っている	29	(19.0%)
③会えば立ち話をする程度	53	(34.6%)
④あいさつを交わす程度	48	(31.4%)
⑤ほとんど付き合いがない	5	(3.3%)
⑥隣近所にどんな人が住んでいるかわからない	2	(1.3%)
合計	153	(100.0%)



--【参考】前回調査との比較--



--【参考】居住年数別に見た近所づきあいの程度 問4×問18(7)--

居住年数ごとの比率 (R5)		問18(7)地域への居住年数 (年)				
		～4	5～9	10～19	20～29	30～
問4 近所付き合いの程度	①困った時に何でも相談し助け合える人がいる	4.8%	5.6%	8.3%	6.3%	14.9%
	②家を行き来するなど親しく付き合っている	4.8%	0.0%	12.5%	31.3%	27.0%
	③会えば立ち話をする程度	38.1%	27.8%	16.7%	43.8%	39.2%
	④あいさつを交わす程度	42.9%	55.6%	58.3%	18.8%	16.2%
	⑤ほとんど付き合いがない	4.8%	11.1%	4.2%	0.0%	1.4%
	⑥隣近所にどんな人が住んでいるかわからない	4.8%	0.0%	0.0%	0.0%	1.4%
合計		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

**【調査結果】**

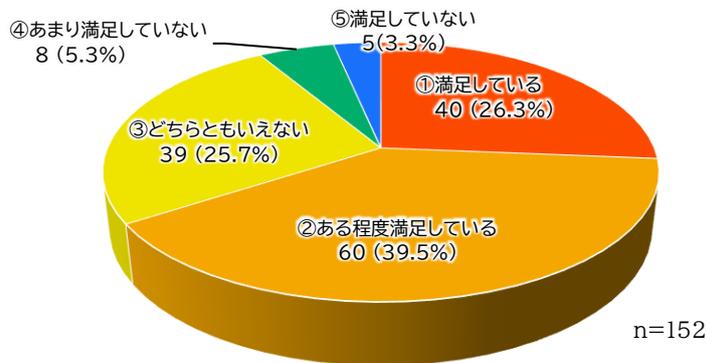
近所付き合いの程度について聞いたところ、前回アンケートと比べて、何でも相談し合える、家を行き来できるような関係は減少し、顔を合わせたら挨拶する程度の付き合いの割合が増加した。

また、問18(7)[居住年数]とのクロス集計をみると、居住年数が長いほど近所づきあいの親密さが高くなっているものの、20～29年及び30年以上居住している方を見ると、立ち話をする程度の割合が最も高くなっていることがわかった。

このことから、近所付き合いの程度は、単に居住年数の長さによるものではなく、近隣住民の入れ替わりや世代交代による関係変化のほか、一定の距離間を保ちながら近所付き合いを維持するケースなど、様々な背景があるものと推察される。

問5 今の近所付き合いに満足していますか。あてはまるものを1つ選んでください。

選択肢	人数	(割合)
①満足している	40	(26.3%)
②ある程度満足している	60	(39.5%)
③どちらともいえない	39	(25.7%)
④あまり満足していない	8	(5.3%)
⑤満足していない	5	(3.3%)
合計	152	(100.0%)

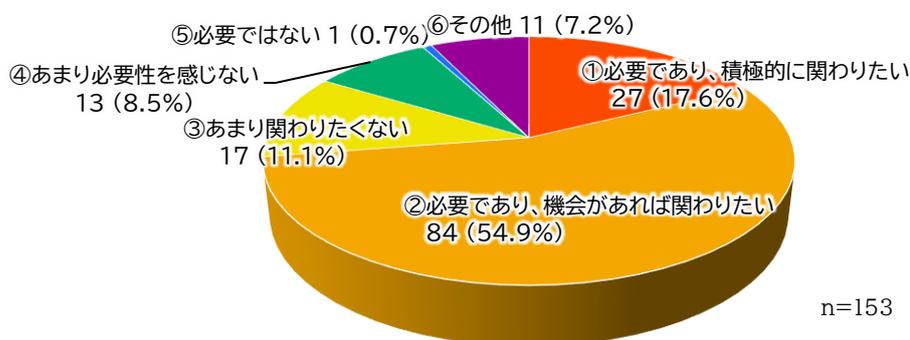


**【調査結果】**

近所付き合いの満足度について聞いたところ、ある程度満足している方が最も多く、満足している方と合わせると約65%が概ね満足している状況であった。

問6 近所付き合いについてどのように考えますか。あてはまるものを1つ選んでください。

選択肢	人数	(割合)
①必要であり、積極的に関わりたい	27	(17.6%)
②必要であり、機会があれば関わりたい	84	(54.9%)
③あまり関わりたくない	17	(11.1%)
④あまり必要性を感じない	13	(8.5%)
⑤必要ではない	1	(0.7%)
⑥その他	11	(7.2%)
合計	153	(100.0%)



●その他(自由記載)

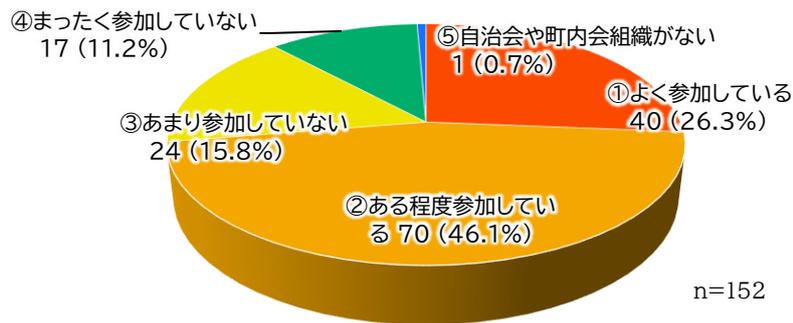
必要であると思うが、相手はどう思っているのかわからないと遠慮してしまう傾向にある。
距離感が問題になると思っている。
必要であると思うが、人間性によって判断する
必要であれば助けたいが通常はプライベートを大切にしたい
マンション住まいなので近所付き合いについてあまり考えた事がない。
近所付き合いは主観の問題。ある程度共通認識がないと築けないと思う。
必要ではあるが、積極的に関わりたくはない。
人が1人で生きて行けないのと同様、関らずにはいられない。
個人と個人より町内単位での行事が楽しいと人間関係も良くなります。
昔のように困った時はお互い様ということがなくなってしまい、隣近所のことには関わりたくないという人が増えた。地域の人達の信頼関係を作っていく為に支援員のような人を公募で委託したらどうでしょうか？

【調査結果】

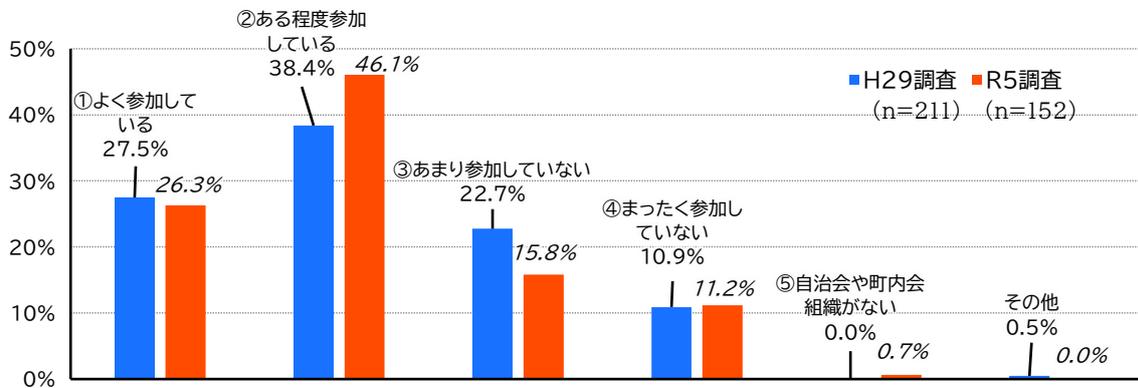
近所付き合いへの意向について聞いたところ、7割を超える方がその必要性を認識しており、機会があれば関わっていくとした方の割合が最も多かった。一方、自由記載からは、相手の意向が不明であることや人間性によって判断するなど、個々の事情により一概には言えないということや、自身のプライベートを大切にしたいとの意向も窺えた。

問7 自治会・町内会活動に参加していますか。あてはまるものを1つ選んでください。

選択肢	人数	(割合)
①よく参加している	40	(26.3%)
②ある程度参加している	70	(46.1%)
③あまり参加していない	24	(15.8%)
④まったく参加していない	17	(11.2%)
⑤自治会や町内会組織がない	1	(0.7%)
合計	152	(100.0%)



--【参考】前回調査との比較--

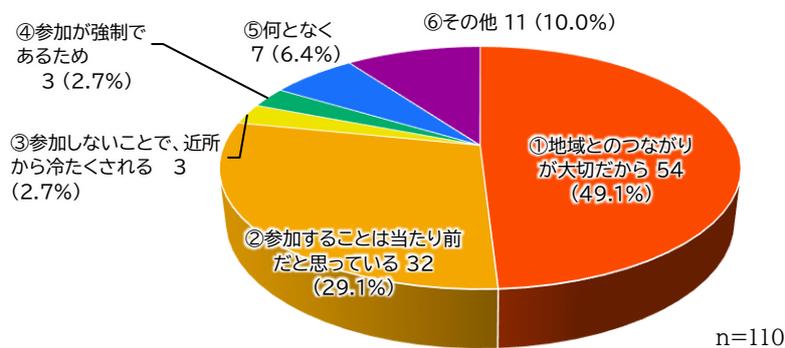


【調査結果】

自治会・町内会活動への参加状況について聞いたところ、「よく参加している」、「ある程度参加している」と回答した方が7割を超え、前回アンケートから 6.5 ポイント増加した。

問7-補1 【問7で①又は②を選択された方にお聞きします。】  
理由として最も近いものを1つ選んでください。

選択肢	人数	(割合)
①地域とのつながりが大切だから	54	(49.1%)
②参加することは当たり前だと思っている	32	(29.1%)
③参加しないことで、近所から冷たくされる	3	(2.7%)
④参加が強制であるため	3	(2.7%)
⑤何となく	7	(6.4%)
⑥その他	11	(10.0%)
合計	110	(100.0%)



●その他(自由記載)

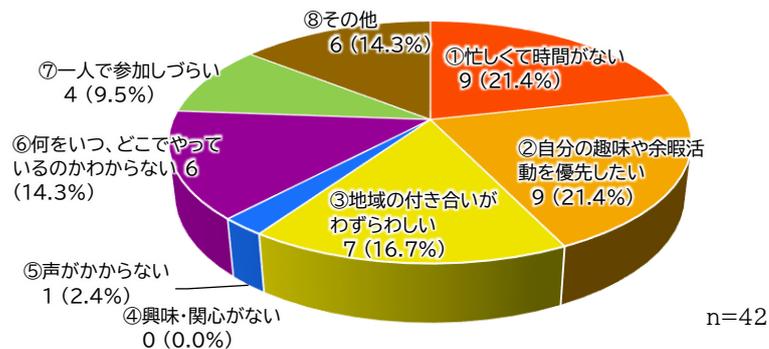
参加する事で地域住民をよく知る事ができるし、活動自体もやりがいがあって楽しい。
強制ではないが、誰かがやらねばならず、頼まれればせざるを得ないと感じるから参加できる場合は参加したいと考えているため。
子供会で参加しなくてはいけないから。
子どもがいたこともあり、子ども会行事や町内会行事には参加している
役員なので参加しているが後継者がいないので退任できない。地域住民が高齢化しており次世代は60才すぎても働いている。
参加できる人が参加しないと自治会としての機能を果たせないと思うから係があるので参加している
当番制のため
参加強制でなくても、当番で割り当てられたりしたら参加しなくてはならない気になる。(お互い様でやらないといけない…)
早朝作業等は参加しなければと思って参加しますが、スポーツ系については年齢的な事もあり参加していません。
(地区自治会長をしています。)

【調査結果】

自治会・町内会活動に参加する理由としては、地域とのつながりを大切であるとした方が最も多かったが、強制ではなくても係が当番制であるなど、地域のルールを守らなければならないという理由により参加している方もみられた。

問7ー補2【問7で③又は④を選択された方にお聞きします。】  
理由として最も近いものを1つ選んでください。

選択肢	人数	(割合)
①忙しくて時間がない	9	(21.4%)
②自分の趣味や余暇活動を優先したい	9	(21.4%)
③地域の付き合いがわずらわしい	7	(16.7%)
④興味・関心がない	0	(0.0%)
⑤声がかからない	1	(2.4%)
⑥何をいつ、どこでやっているのかわからない	6	(14.3%)
⑦一人で参加しづらい	4	(9.5%)
⑧その他	6	(14.3%)
合計	42	(100.0%)



●その他(自由記載)

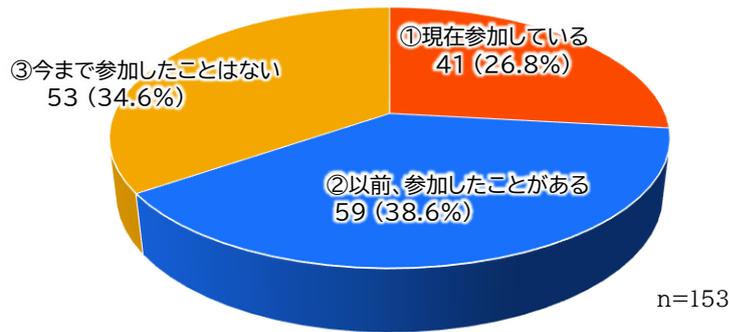
息子世代に引き継いだ
近所という地域的なつながりではなく、価値観や世代などをともにするコミュニティへ参画するほうが精神的なストレスが少ないため
居住してから疎遠。「5W1H」の何も目にふれることがなく、存在が無状態。
忙しい訳ではないが、活動日と仕事が休みの日と合わない事があるため。
勤務している為、日中は留守の為
参加したいと思うような活動がない。
(地域活動といっても朝掃除と年1回のスポーツレクリエーションぐらいで最低限、朝掃除だけは(月1回)参加している。個々の個性もあるのでまとまりにくいこともある。)

【調査結果】

自治会・町内会活動へ参加していない理由については、多忙であることやプライベートを優先したいことが挙げられたが、わずらわしさや地域的なつながりへのストレスを感じることを理由に挙げる意見もあった。

問8 ボランティア活動への参加状況について、あてはまるものを1つ選んでください。

選択肢	人数	(割合)
①現在参加している	41	(26.8%)
②以前、参加したことがある	59	(38.6%)
③今まで参加したことはない	53	(34.6%)
合計	153	(100.0%)

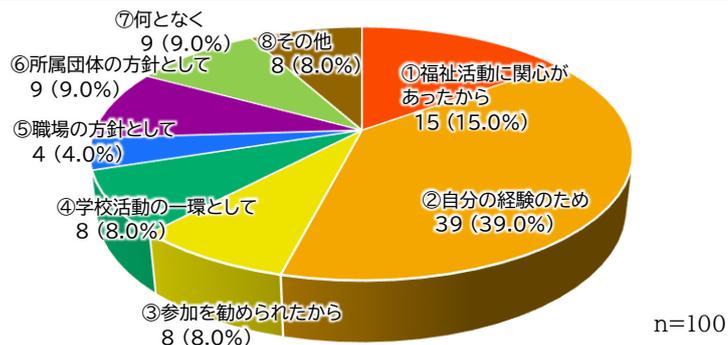


【調査結果】

ボランティア活動への参加状況について聞いたところ、6割を超える方がボランティア活動に関わったことがあるとの回答があった。

問8－補1【問8で①又は②を選択された方にお聞きします。】  
理由として最も近いものを1つ選んでください。

選択肢	人数	(割合)
①福祉活動に関心があったから	15	(15.0%)
②自分の経験のため	39	(39.0%)
③参加を勧められたから	8	(8.0%)
④学校活動の一環として	8	(8.0%)
⑤職場の方針として	4	(4.0%)
⑥所属団体の方針として	9	(9.0%)
⑦何となく	9	(9.0%)
⑧その他	8	(8.0%)
合計	100	(100.0%)



●その他(自由記載)

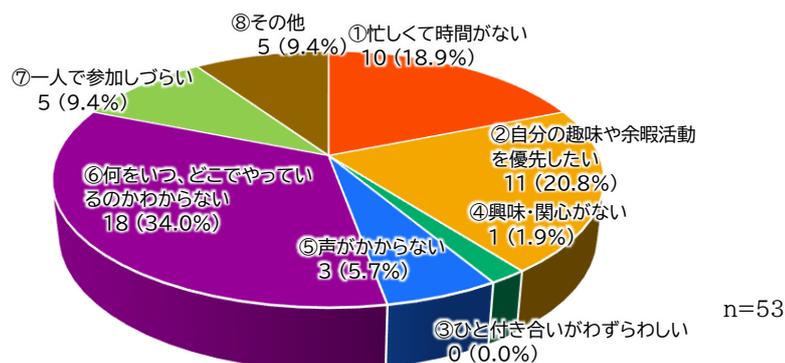
人に感謝される事が好きなので。
福祉活動が大切であり、ボランティア団体を立ち上げた。
いま子どもたちにじぶんができることで関わったら、お互いにとってプラスだと思ったため。
自分が出来る事は地域に恩返ししていこうと考えているため
自分の得意分野でお役に立てると考えたから
役員なのでボランティア活動は必須である。月 2～3 回ゴミ集積所で紙類や段ボール類の回収作業他。
自分に出来ることから何かしら役に立てればと思ったから
図書ボランティア、子育て中に館の本を多く利用したので、お返しにと思いました。又、私も元気をもらってます。
(民生児童委員をしています。)
(東京で参加)

【調査結果】

ボランティア活動に参加する(した)理由について聞いたところ、「自分のため」という方が最も多かった。自由記載からは、自分の専門性を活かすことや、これまでの支援に対する恩返しとして参加しているという方もみられた。

問8－補2【問8で③を選択された方にお聞きします。】  
理由として最も近いものを1つ選んでください。

選択肢	人数	(割合)
①忙しくて時間がない	10	(18.9%)
②自分の趣味や余暇活動を優先したい	11	(20.8%)
③ひと付き合いがわずらわしい	0	(0.0%)
④興味・関心がない	1	(1.9%)
⑤声がかからない	3	(5.7%)
⑥何をいつ、どこでやっているのかわからない	18	(34.0%)
⑦一人で参加しづらい	5	(9.4%)
⑧その他	5	(9.4%)
合計	53	(100.0%)



●その他(自由記載)

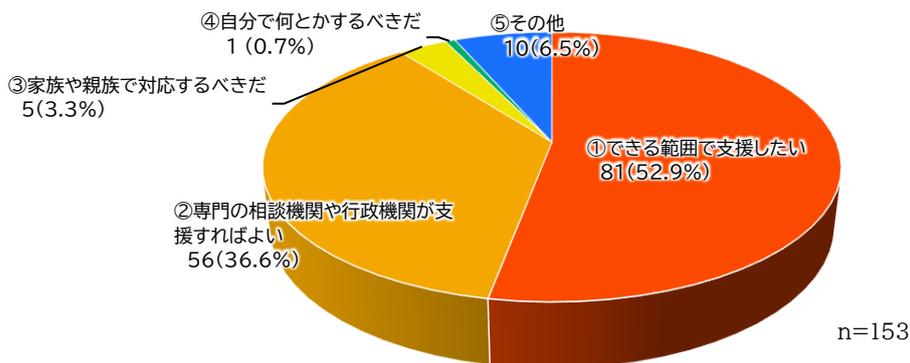
自分の生活で時間も金銭的にも一杯なのでボランティア活動に参加する気持ちに余裕がない。
車で移動となると車の免許証もっていないので出来ない。
お金がもらえないから。
ボランティア活動は広くてどこからどこがボランティアかわからない。

【調査結果】

ボランティア活動に参加していない理由について聞いたところ、多忙やプライベート優先ということ以上に、「何をいつ、どこでやっているのかわからない」としてボランティア活動に関する情報が得られていないことを挙げた方が最も多かった。

問9 近所に住んでいる、何らかの生活・福祉課題を抱える方や家庭への支援についてどのように考えますか。最も近いものを1つ選んでください。

選択肢	人数	(割合)
①できる範囲で支援したい	81	(52.9%)
②専門の相談機関や行政機関が支援すればよい	56	(36.6%)
③家族や親族で対応するべきだ	5	(3.3%)
④自分で何とかするべきだ	1	(0.7%)
⑤その他	10	(6.5%)
合計	153	(100.0%)



●その他(自由記載)

地域と専門の相談機関・行政機関が連携して対応する必要がある。どちらかだけでは成功しない。
できる範囲で支援したいと思うが、支援に頼りすぎない(働けるのに、働かないなど)環境にしていく事が大事だと思う。
ご本人が問題だと認める、受け入れることが第一だと思う。

まずはその方の持っているつながりのなかでの支援を受けて、それが難しい場合には2の専門の機関で支えるのがいいかと思います。近所に住んでいるということだけで、自身がなにか支援をしたいという感情はあまり起きないというのが正直なところです。
回答は、1の気持ちはあっても2の時、3の時もありでしほれませんでした
正直、分からない
支援は公的な機関や家族が担うべき、ただし配慮は周りにいる全ての人が必要です。
身近な所にそのような方がいるかどうか分かりません。行政等にたよることだけでは解決する問題ではなく、個人的にも支援は必要だと思うのですが、モラルの度合が昔と違って難しいように思えます。
支援したい気持ちはあっても自分の生活以外に余裕がない。(母子家庭)
臨機応変に対応した方がよい
(まず、第1に自助で解決すべき初めから人を頼るのではなく、でと思います。)

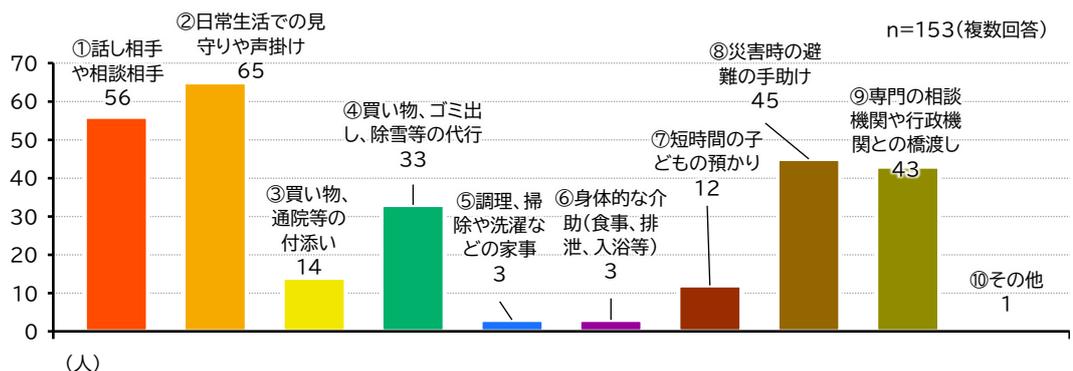
### 【調査結果】

近所で支援を必要とする方への関わりについては、できる範囲で支援したいとした方が半数に上ったが、自分や家族で対応すべきとの意見もあった。また、自由記載によると、専門機関の関わりだけで解決する問題ではないこともあるといった意見もあった。

#### 問9－補【問9で①を選択された方にお聞きします。】

あなたが協力できると思う支援について、あてはまるものをすべて選んでください。

選択肢	人数	(割合)
①話し相手や相談相手	56	(69.1%)
②日常生活での見守りや声掛け	65	(80.2%)
③買い物、通院等の付添い	14	(17.3%)
④買い物、ゴミ出し、除雪等の代行	33	(40.7%)
⑤調理、掃除や洗濯などの家事	3	(3.7%)
⑥身体的な介助(食事、排泄、入浴等)	3	(3.7%)
⑦短時間の子どもの預かり	12	(14.8%)
⑧災害時の避難の手助け	45	(55.6%)
⑨専門の相談機関や行政機関との橋渡し	43	(53.1%)
⑩その他	1	(1.2%)



●その他(自由記載)

農・漁作業

(そもそもの課題を抽出して解決策を検討・実施するような組織的な支援)

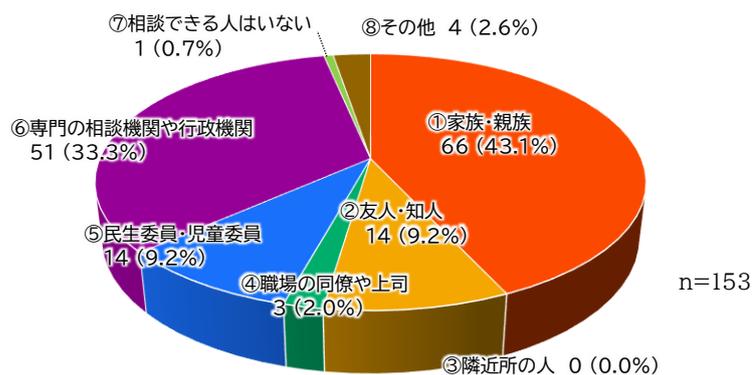
【調査結果】

協力できる支援について聞いたところ、「日常的な見守りや声かけ」が最も多くなっており、問4の近所付き合いについて、立ち話やあいさつ程度とした回答が多かったものとの関連がうかがわれた。

また、話し相手、買い物等の代行、災害時の支援や行政との橋渡しなど、間接的な支援への協力について可能な限り協力するとした方が多かった。

問 10 生活や福祉に関する相談や悩みごとで自分では解決が難しいことがあった場合、まず、どのようなところに相談しますか。主なものを1つ選んでください。

選択肢	人数	(割合)
①家族・親族	66	(43.1%)
②友人・知人	14	(9.2%)
③隣近所の人	0	(0.0%)
④職場の同僚や上司	3	(2.0%)
⑤民生委員・児童委員	14	(9.2%)
⑥専門の相談機関や行政機関	51	(33.3%)
⑦相談できる人はいない	1	(0.7%)
⑧その他	4	(2.6%)
合計	153	(100.0%)



●その他(自由記載)

ネットや書籍等で情報を調べる。

田舎だからこそ、守秘義務が守られているか重要だと思うが、そこに信頼性がないと感じている  
発達障害があり障害者手帳交付されています。レインボーネットの相談員に相談しています。

あまり感じない

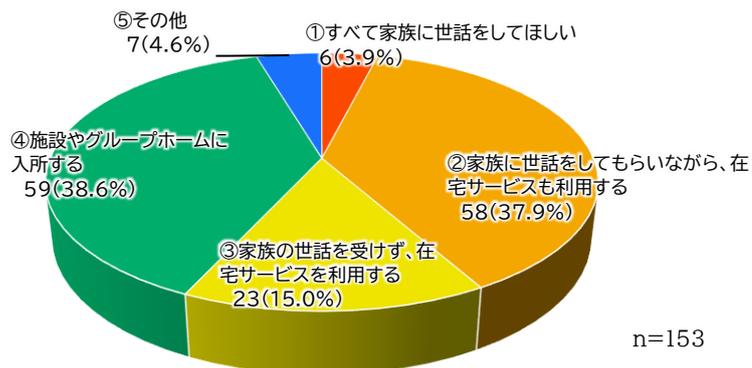
(ほとんどが自分で解決出来るが、万が一は機関へ)

**【調査結果】**

自分では解決が難しいことへの相談については、家族や専門機関・行政機関への相談を挙げた方が多かった。一方、自由記載によると、地域内での相談における守秘義務の信頼性への疑念を示す回答もみられた。

問 11 あなた自身が、加齢や病気・障がいのために自分の力だけでは自立して生活することが難しくなった場合、どのようにしたいですか。あてはまるものを1つ選んでください。

選択肢	人数	(割合)
①すべて家族に世話をしてほしい	6	(3.9%)
②家族に世話をしてもらいながら、在宅サービスも利用する	58	(37.9%)
③家族の世話を受けず、在宅サービスを利用する	23	(15.0%)
④施設やグループホームに入所する	59	(38.6%)
⑤その他	7	(4.6%)
合計	153	(100.0%)



●その他(自由記載)

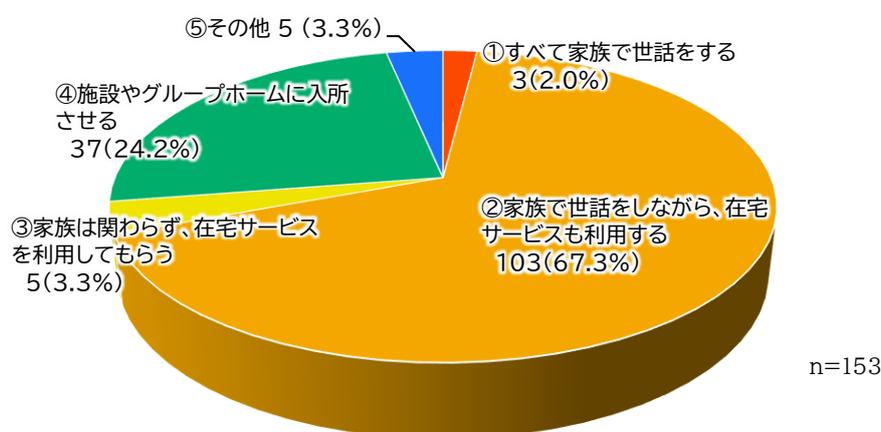
迷惑がかからないように死ぬ
その時の状況による
この問題が近くなってきているのにそういえばどうすればいいのかなと考えさせられる。今は2人住まい、まだ大丈夫なのですが、次男が近くに住んでいます。
家族が世話をしたがるのでなければ、公的なサービスを利用したい
できればホームと思いますが予算問題が大きくどうしたらいいのやら。
お金に余裕があるのであれば在宅サービスをたくさん利用したり施設への入所などをして家族の世話になるべくならないようにしたいが、なかなかそうは現実問題、難しいと思う。
収入ゼロ(非課税世帯を含む)者への支援を希望
(程度内容にもよるが③か④※世話が出来る(~をしてくれる)家族がいない。)

**【調査結果】**

自分自身の自立が難しくなった場合、施設等の利用を検討する方が最も多く、家族の世を受けながらも在宅サービスを併用するとした方が多かった。自由記載からは、周囲に迷惑が掛からないようにしたいという意向もみられた。

問 12 あなたの家族(又は身近な親族等)が、加齢や病気・障がいのために本人の力だけでは自立して生活することが難しくなった場合、どのようにしたいと思いますか。あてはまるものを1つ選んでください。

選択肢	人数	(割合)
①すべて家族で世話をする	3	(2.0%)
②家族で世話をしながら、在宅サービスも利用する	103	(67.3%)
③家族は関わらず、在宅サービスを利用してもらう	5	(3.3%)
④施設やグループホームに入所させる	37	(24.2%)
⑤その他	5	(3.3%)
合計	153	(100.0%)



●その他(自由記載)

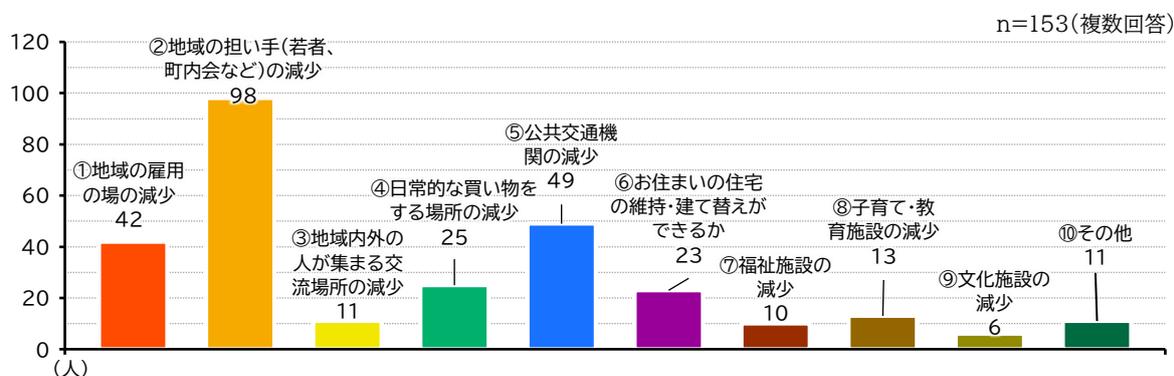
最初は家族で世話をしたり在宅サービスを使ったが、介護度が上がるにしたがい、介護する側が倒れたり限界があった。その後、介護施設に入所させた経験があります。
家族・親族の誰か、周りの状況による
その家族が誰かによる。夫など、自分より体の大きい人の世話は難しいと思う
お金があれば在宅サービスを利用したり施設もどんな施設でもいいと思うけど、なかなか難しいと思う。
社会福祉課の手厚い支援 (程度による)
(今のうちに話し合っている。老々介護は難しい。※話し合っている内容は葬儀の事まで)
(介護はしても良いが自分も腰痛やら痛い所がある。年を重ねる毎に出来ない事が増えている、己も健康寿命を伸ばしたく食事、運動と努力している。)

【調査結果】

家族の自立が難しくなった場合には、自分の時とは異なり、在宅サービスを併用しながら家族で世話をすると答えた方が7割近くに上った。自由記載においては、介護の状況によっては家族介護にも限界があることや、どのように対応するか家族と相談されていることについて記載いただいた方もいた。

問 13 あなたは、お住まいの地域における将来の生活環境について、不安に感じていることはありますか。主なものを2つまで選んでください。

選択肢	人数	(割合)
①地域の雇用の場の減少	42	(27.5%)
②地域の担い手(若者、町内会など)の減少	98	(64.1%)
③地域内外の人が集まる交流場所の減少	11	(7.2%)
④日常的な買い物をする場所の減少	25	(16.3%)
⑤公共交通機関の減少	49	(32.0%)
⑥お住まいの住宅の維持・建て替えができるか	23	(15.0%)
⑦福祉施設の減少	10	(6.5%)
⑧子育て・教育施設の減少	13	(8.5%)
⑨文化施設の減少	6	(3.9%)
⑩その他	11	(7.2%)



●その他(自由記載)

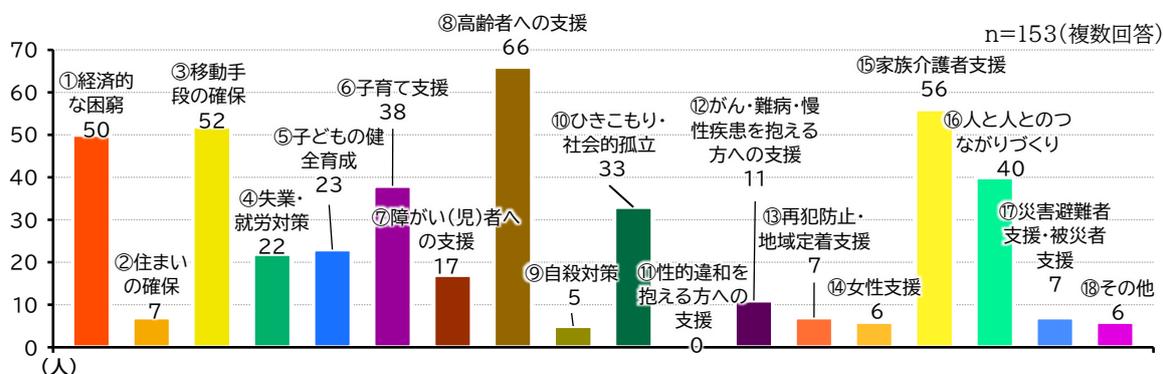
放棄された農地等が増えて野生動物や衛生の問題が出てくるのではないかな。
病院の科の減少、診察日の減少、診察待ち時間の長さ
全体的に疎遠となり、地域に関する考え方が変わってきている。理解するための場所が無い。
医療機関の減少。診療時間外の診察をしてくれる救急病院が近くに無い。県立病院が市内にあるが夜間受け入れがないため、隣の市まで行かなければならない。
医療の質の低下
選ぶまでもなく全てです。
いろいろな科の病院
人口の減少
病院(産院)が近くになくなった事。
地域の農地の(林も)管理が難しい
過疎化に伴い人口減少に拍車をかけ沿岸部では空き家も目立ち、また老夫婦の世帯も多く見られます、街の将来が心配です。
(介護施設への入居の問題(空いていない))
(今は運転 OK ですが、先5年後は心配である。)

【調査結果】

将来の生活環境への不安については、地域の担い手減少を挙げた方が最も多く、次いで、公共交通機関の減少や地域の雇用の場の減少が多かった。自由記載においては、地域医療や地域環境について記載された方がいた。

問 14 地域福祉における課題について、重点的に取り組む必要があると思うものを3つ選んでください。

選択肢	人数	(割合)
①経済的な困窮	50	(32.7%)
②住まいの確保	7	(4.6%)
③移動手段の確保	52	(34.0%)
④失業・就労対策	22	(14.4%)
⑤子どもの健全育成	23	(15.0%)
⑥子育て支援	38	(24.8%)
⑦障がい(児)者への支援	17	(11.1%)
⑧高齢者への支援	66	(43.1%)
⑨自殺対策	5	(3.3%)
⑩ひきこもり・社会的孤立	33	(21.6%)
⑪性的違和を抱える方への支援	0	(0.0%)
⑫がん・難病・慢性疾患を抱える方への支援	11	(7.2%)
⑬再犯防止・地域定着支援	7	(4.6%)
⑭女性支援	6	(3.9%)
⑮家族介護者支援	56	(36.6%)
⑯人と人とのつながりづくり	40	(26.1%)
⑰災害避難者支援・被災者支援	7	(4.6%)
⑱その他	6	(3.9%)



●その他(自由記載)

地域における相談や話し合える場所や組織がない限り、ただ見守るだけの人でしかない。  
 草刈り、雪かきなどの重労働をする人が減る事への補佐をどのようにしていくか  
 町内会の役員の担い手がないので町内会活動が十分にできなくなっている。高齢化と高齢者も働いている方が多く従事できない。  
 全てだと思います。  
 ①～⑰はどれも重要で3つだけは選べない。  
 人口の少ない地域ほど相談できる場所、人がいない。親戚関係が多く、安心して話せる所がない為、問題解決が難しい。  
 (一次産業への支援)  
 (一人暮らしの高齢者の見まわり、生活支援を必要としている方が多い。)

--【参考】年代別に見た地域福祉課題 上位3項目 問 18(2)×問 14-----

年代	項目					
20代 (n= 7)	⑥子育て支援 57.1%	④失業・就労対策 42.9%	⑮家族介護者支援 42.9%			
30代 (n=23)	⑤子どもの健全育成 39.1%	⑥子育て支援 39.1%	⑮家族介護者支援 34.8%			
40代 (n=18)	⑧高齢者への支援 50.0%	①経済的な困窮 38.9%	⑮家族介護者支援 38.9%			
50代 (n=28)	①経済的な困窮 46.4%	⑧高齢者への支援 42.9%	⑮家族介護者支援 32.1%			
60代 (n=35)	⑮家族介護者支援 45.7%	⑧高齢者への支援 42.9%	③移動手段の確保 37.1%			
70代以上 (n=42)	⑧高齢者への支援 57.1%	③移動手段の確保 45.2%	⑩ひきこもり・社会的孤立 35.7%			

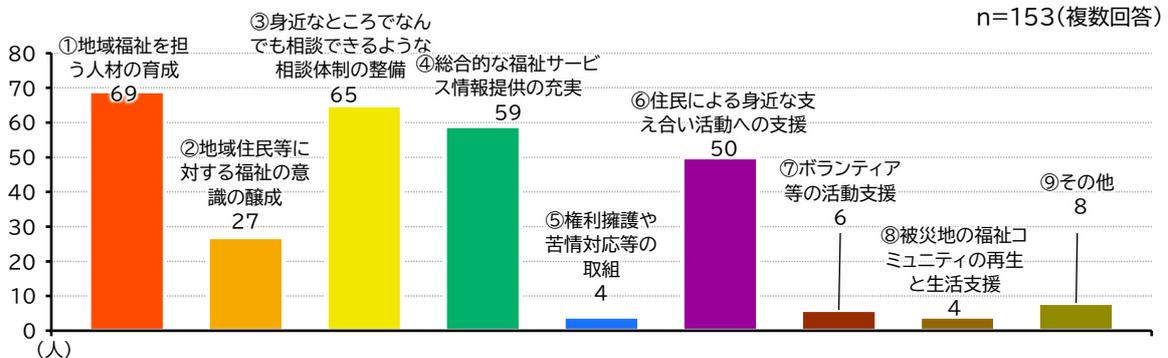
【調査結果】

地域福祉における課題について、特に重点的に取り組むべき事項を聞いたところ、「高齢者への支援」、「家族介護者支援」と答えた方が多かったほか、移動手段の確保や経済的困窮、人と人とのつながりづくりといった、世代や分野を超えた地域共通の課題を挙げた方も多かった。

これを年代別にみると、年代を超えて家族介護者支援の割合が高かったほか、20・30代は子ども・子育て支援に関するもの、40・50代は経済的困窮、60代以降は高齢者支援・移動手段に関する項目が高いという特徴がみられた。

問 15 地域福祉を推進するために、行政はどのような分野を優先して取り組むべきだと思いますか。あてはまるものを2つまで選んでください。

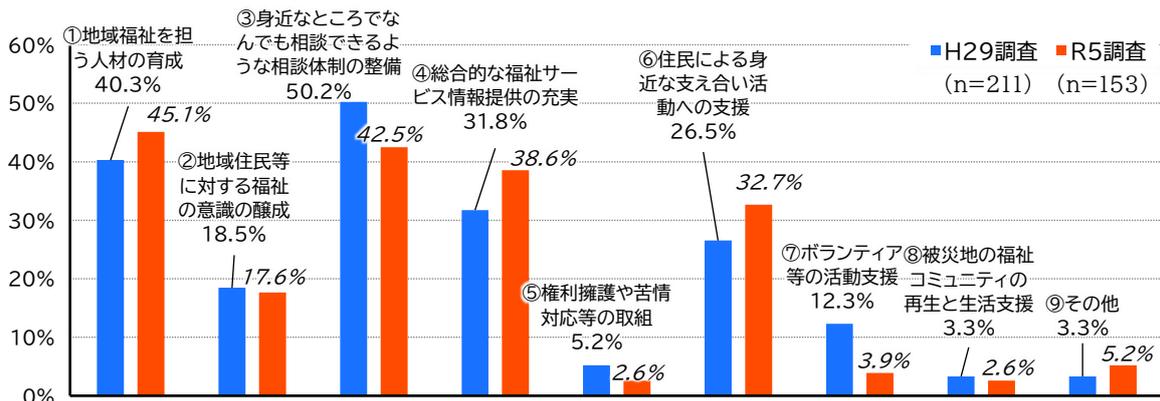
選択肢	人数	(割合)
①地域福祉を担う人材の育成	69	(45.1%)
②地域住民等に対する福祉の意識の醸成	27	(17.6%)
③身近なところでなんでも相談できるような相談体制の整備	65	(42.5%)
④総合的な福祉サービス情報提供の充実	59	(38.6%)
⑤権利擁護や苦情対応等の取組	4	(2.6%)
⑥住民による身近な支え合い活動への支援	50	(32.7%)
⑦ボランティア等の活動支援	6	(3.9%)
⑧被災地の福祉コミュニティの再生と生活支援	4	(2.6%)
⑨その他	8	(5.2%)



●その他(自由記載)

福祉分野は誰もができる事ではないので手当たり次第に住民協力を募るのではなく、適正のある人材育成を行いコミュニティ形成の手助けをするのは行政のやくわりだと思う。
各地域で支援を必要としている人とその内容を可視化できる仕組みを整備しつつ、そのデータから、優先内容を決め、そこへ合わせ 合わせた人員体制をつくる。
相談されたことをいかに実践できるのか、行政の実行力を示してほしい。
守秘義務の徹底
少し地域福祉とは異なるかもしれませんが、何かあったときのセーフティネットとしての生活保護の受給を積極的に行うことが大切だと思います。(移住者の身からすると、そこに定住するわけではないので、全国どこに住むことになっても、そこに最低限のセーフティネットがあることのほうが大切だと思います)
福祉分野の賃上げ。
公平な立場で人の困りごとを聞き、聞く事だけではなく、問題をどのように楽にしてあげられるか、人の育成をして欲しい。
教育の充実と金による進路の選択制限されない社会

--【参考】前回調査との比較--



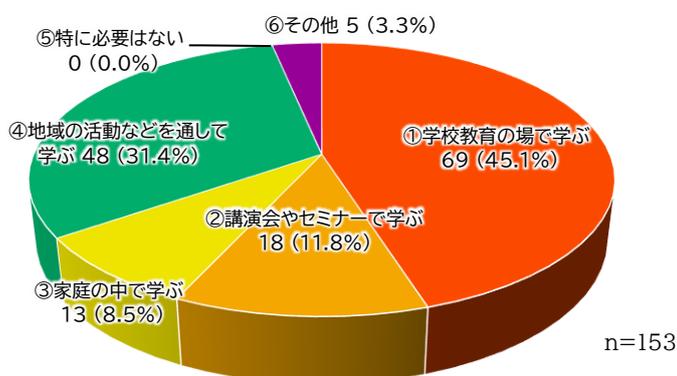
【調査結果】

地域福祉の推進にあたり行政が優先して取り組むべき項目を聞いたところ、地域の福祉を担う人材の育成が最も高く、次いで身近な相談体制の構築、総合的な福祉サービス情報提供の充実が高くなっていた。

前回アンケートと比較してみると、福祉サービス情報提供の充実と住民による身近な支え合い活動への支援がそれぞれ6ポイントを超える増加がみられ、DX(デジタルトランスフォーメーション)が発展する中で、住民自体が必要な情報にアクセスして解決することに対する期待が大きくなってきたものと推察される。

問 16 地域における福祉教育(思いやりの心を育み、福祉への理解を深めるための取組)について、どのように行うべきだと思いますか。最もあてはまるものを1つ選んでください。

選択肢	人数	(割合)
①学校教育の場で学ぶ	69	(2.0%)
②講演会やセミナーで学ぶ	18	(67.3%)
③家庭の中で学ぶ	13	(3.3%)
④地域の活動などを通して学ぶ	48	(24.2%)
⑤特に必要はない	0	(3.3%)
⑥その他	5	(100.0%)
合計	153	(2.0%)



●その他(自由記載)

(選択肢)3・1・4の順でのループ(繰り返し)が必要だと思う
いのちの尊厳を学ぶ機会など
小学生のうちから、福祉施設などへ出向き、高齢者や障がい者など医療的ケアが必要な方と接する機会があるといい。1日体験のようなことができるといい。資料や講演会で何度も学ぶより、直接自分の目で見ることの方が伝わるし身近に感じると思う。
障害者や高齢者や犯罪歴がある人など、福祉を必要とする人たちが当然のように同じ町で暮らしていくこと、当たり前に関わっていくことでしか理解は進まないと思う
特に大切なのは、地域のトップ、リーダー役の人が重要だと思う。現状は年長(70代以上)の男性がなっているが、もっと若い人がいい。
(学生は学校教育で！大人はなかなか学ぶ場がない。講演会位かな)

【調査結果】

福祉教育の取組について聞いたところ、「学校教育の場で学ぶ」が最も多かったが、「地域の活動を通じて学ぶ」も3割の方が選択した。自由記載には、それぞれの学びの場がつながり、幼い頃からの実体験の必要性について記載があった。

問 17 県では今年度、第4期岩手県地域福祉支援計画の策定を進めています。計画の内容や地域福祉全般について、御意見がありましたら御記入ください。

1	人口減少、高齢化は避けられません。予算確保もさらに厳しくなっていくと思います。将来を担う若い人にこれ以上重荷を背負わせないよう、現実路線で、相互の助け合い精神を基本に計画を作成して欲しいです。
2	実際の現場を知らない人間が考えても意味がない。もっと現場を知るべき。書類や数字ばかり見ないで担当者は自分の足で歩いて自分の目で見てから計画を考えては？
3	高齢化が加速し子供が減って人口減少著しい日本において、国に金銭的な余裕のあった時代の手厚い福祉を継続するのは不可能である。本当に必要な福祉と過剰サービスになっている福祉を切り分け、若い世代が希望を持てるような社会を形成する必要がある。
4	既にあるかもしれませんが、他部所と連携がとりやすい、支援制度ができると、効率が良いのではないかとと思います。(具体例がなくすみません)
5	1期から3期まで進んだ割に、意見集約だけで実際に形を持ったものが示されていない気がします。その地域にあった活動が必要ですが、全県を通じて目標を作り上げて、形を持ったものが示し、検証と再構築をしないと何年経っても現実のものにはならず、時が流れていくだけでしかならない。4期の間に実際に可能な構想を確立する事が必要だと思います。
6	各地域の中心部では、何とか生活環境が成り立っていても、そこから離れたところ、特に農村部では、行政機関の縮小で暮らしそのものが成り立たない状況になっている。県内で市町村の大合併がなされたところの地域で消えてしまった市町村でこの現象が顕著である。
7	車椅子でも気軽に飲食店入って家族と一緒に出来る所がたくさんあればいいと思います。又、スロープがある所など少ないのでは…。今回最初の地域福祉に関する調査、私にとって難しかったです。この機会に福祉について勉強だと思いました。又一年間二年目に入ります色々勉強していきたいと思いました。
8	地域福祉と聞いたときに、最も気になるのは守秘義務がどこまで守られるのかということだとわたしは感じている。またあまりにも近い人間関係で福祉を行うことの不快感であったり、不和感であったりを懸念する。 医療分野で圏域があるように、ある程度のブロック分けをして少し離れた地域からサービスや人が派遣されるスタイルも検討されてもよいのではないかと。 またこの国では対処療法が多用され、根治療法が用いられない傾向にあるように感じているが、それは福祉の分野においても同じで、そこを軽んじているのはマンパワーや金銭の垂れ流しになりかねず、あるいは業者だけが潤うなど偏りが生じる可能性があり、継続的な福祉の実現は困難なのではないかと思う。地域というワードを加えることで地域住民に無償ボランティアでの関わりを求めるのも、これからの時代は無理があると思う。マンパワーと経済のバランスがとられた上で地域福祉がまわれば、それは誰にとっても嬉しいのではないだろうか。
9	「モノ」より「心」。地域住民の心と心がしっかりと向き合い理解しあえる関係づくりが大切だと思います。
10	高齢化、過疎地域における労働補充(雪かき、草刈りなど)
11	誰一人取り残さない(実のある)県民の望む福祉支援を期待する。
12	私は要介護3の父と二人暮らしです。平日月曜から金曜までデイサービスで預かって頂き大変助かっています。私のような環境にある人たちが様々な面で困ることのないような支援計画になると有難いです。
13	自分は、他人に対して介入を行う近所の方がいると、そこに住むことにストレスを抱えてしまいます。その地域ネットワークで福祉を考えることになると、地域コミュニティ参加への強制力が強まる結果になるのではと思います。個人的にはあまり他人に干渉しないでほしいと考えています。
14	QRコードを見て、とても良い支援企画だと思います。市町村から、地域、町内会を通じて自分で出来る範囲で協力して行きたいと思っております。
15	各地区の民生委員児童委員の定数割れが長年続いており委員の負担増加(高齢化)にて危惧しています。
16	高齢化が進み人口減少の中、地域内での支え合いが、本当に必要になっていると思う。相手を尊重しながら(認め合いながら)関わって行く事の難しさを感じるが、進めて行きたいと思う。
17	福祉を学びたいと志す学生が少ないわけではないのに、なぜ地元に戻れないのかを真剣に考えるべきだと思います。大学や専門学校で知識や技術を学び資格を得ても、それに見合った対価が得られないため、仕方なく県外に出ていく学生もいます。高齢者や、在宅医療を選択する家庭が増えている中、大事な戦力となる福祉を学んだ若者が地元に戻り、安心して働ける環境を作ることが、最終的には支援を必要とする方へのサービスの向上、充実に繋がると思います。実際に母親を在宅医療で看取りましたが、サービスを受けるために自分で必死に調べない情報

	<p>が得られないこともあり。看護、介護をしながら調べたり手続きすることがこんなに大変なんだと痛感しました。病気が分かった時点で、こんなサービスがある、こんな給付があるという情報を家族に提供してほしい。こちらから聞かなくても教えてほしいと思う。大学病院では医療ソーシャルワーカーさんが丁寧に対応してくれたが、地元で病院ではこちらから聞かない限り情報が得られなかった。医療ソーシャルワーカーという存在を知らない人もまだまだ多いので、もっと周知してほしいと思いましたが、各医療機関に配置してほしいと思いました。社協や市役所の福祉など、広報を通じて様々な福祉サービスの情報をもっと提供してほしいです。</p>
18	<p>支援してあげたい、共に生きていきたいと思っても、知識不足から手を出せなかったり偏見を持ってしまう人が多くいると思う。難しいととをせず、当たり前に来るよう小さなことから地域の人が参加できるようなことがあればいいのかなと思う。</p>
19	<p>認知症など介護が必要なお年寄りが、安価で入れるような施設やサービスの充実を望みます。</p>
20	<p>皆に分かりやすく告知する必要があると思います。実際私は知りませんでした。</p>
21	<p>就労対策(県の最低賃金を 900 円以上にしたい)ボーナス等ない職場が多い中、少しでも少しでも心豊かに暮らせるようなれば良い。</p>
22	<p>居住年が短い為、計画の発足から第3期までの内容、活動が不明。</p>
23	<p>自身は在職中でまだまだ考えつかないですが、ボランティアで福祉支援しながら地域活性化と結びつける方法がないかと思ひます 一部の方だけの負担にならないように皆に相乗効果があり参加したくなる活動ってないのかなあと思ひます 例)バザーとフリーマーケットを合体させたり企画運営で利益が出れば継続しやすいのでは 地域の将来のためにもよろしくお祈りします</p>
24	<p>地方は高齢化が進み、かつて町内会の役員だった人が高齢で退任すると会の活動にも参加しなくなり、様々な活動ができなくなっている。また、役員ななり手がなく、現役員が長年従事することを余儀なくされている。役員の後継者の担い手づくりを行政はマニュアル等で支援してほしい。</p>
25	<p>色々な意見を吸い上げ、それぞれの対策を考えて頂きたいと思ひます</p>
26	<p>支援計画を作る時、又は出来た時には広報をテレビ新聞、広報等(地域の)で広く広報し、岩手は住みやすいというイメージを伝えられたら良いと思ひます。</p>
27	<p>支援が必要な人たちはたくさんいて、いつ自分や自分の家族もそういう立場になるかわからないのに日本人は「迷惑をかけることはいけないこと」という意識が強すぎる。行政や福祉に頼ることをいけないこと、恥ずかしいことと思っている。(行政の人でもそういう考えの人たちがたくさんいると思う)まずはその意識改革からしてほしい。「迷惑をかけない子になってほしい」と願う親が多いけど、人は絶対に他人に迷惑をかけるもの。迷惑をかけたなら「ありがとう」と言おうとか、人に頼られたら助けてあげようとか困ったときはお互いさまなんだよということをお子達に教えてあげてほしい。どれだけ制度を整えても、制度を使いづらい世の中では意味がない。「迷惑をかけてはいけない」その考えが根付いていては、支援を受けている人は常に申し訳ない気持ちで生きていかなければならないし、周りの目も「あの人は周りに迷惑をかけてるくせにのうのうと生きている」となってしまう。制度を整えるよりもまず第一に、意識改革に力を入れてほしい。誰もが支援を利用していいんだとみんなが思えるようにしてほしい。</p>
28	<p>とても(生きる上で)大事な事だと思います。弱者と言われる状態にいつ誰がなりうるのかわかりません。私とて眼の手術をして見づらくなるなんて思いもよりませんでした。今、手話を習い、体の為には太極拳に行き、中国語を習い国際交流でいつか私もろうの方々外国者の方々の橋になれればと深く思うようになりました。となり近所はこれでむずかしい所も有りできるところから助け合えればと思っています。</p>
29	<p>策定途中でよいので、支援計画の概要を示し、パブリックコメント等を実施した方が良いと考えます。</p>
30	<p>独居老人がどんどん増加している状況に対する支援をどうしていくか、沿岸部と内陸部の医療体制の較差など? 65 歳が近づくにつれ心配事が増してきている。広域振興局の体制充実と沿岸地域の較差是正の施策をもっと強化してほしいと思う。</p>
31	<p>ホームページを拝見しました。大きなテーマなので、連携が大切と思ひます。個人的には近所のお付き合いを大切にしていきたいです。</p>
32	<p>誰もが安心して暮らせる地域づくりが多くの人に意識されることを祈っています。</p>
33	<p>岩手日報等毎日目を通す媒体に有れば知り易い。HP をわざわざ見る意識の高い、関心の有る人だけでは解決に向けて、あるいは充実に向けてインパクトが弱い。</p>
34	<p>子供の頃は子供会などの地域行事があり大人も自然と集まる機会があり繋がりが保てていました。互いに面識があることで、日頃から気にかけてたりと繋がりが維持されると思ひます。</p>

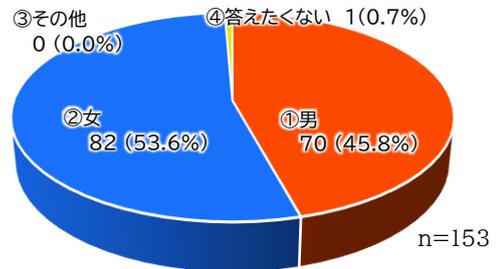
35	地域福祉支援計画について、無知でしたし、地域との関わりもあまりなかったのでこれを機に少しでも興味を持ち小さな事から地域に貢献できればいいと思いました。
36	退職後の高齢者の社会参加を促すため、行政サイドから情報提供を含め働きかけてほしい。
37	ヘルパー、介護福祉士、ケアマネと仕事をしてきましたが、わりと福祉の仕事をしている人は、冷たい人が多いような気がします。残念ですが、私に発達障害があると上司に言いましたが、理解されませんでした。今も怖くて会社勤めはできません。
38	公務員の仕事って何なんだろう？と最近痛切に感じます。 何故一般市民には、分かることが、役所仕事は、手続き重視でなかなか先に進まず、動きが遅く手を指し伸ばして人、さし伸ばしたくても あまねいてる方々が いらっしやることにも気が付かないで、机上の仕事優先しているように思えます。自分ができることを、コツコツやってる方が 誰かのためになるのではと行動しています。小さい事です。
39	このような機会(モニター)がないと、このような計画があることを知らない人が多いのではと思う。もう少し、広報などでも知らせしてほしいと思うし、ホームページだけだとなかなか見ないと思う。普段の生活でもこの計画によって、何が変わったのか変化が感じられない。
40	2011年の震災以降、沿岸部での取り組みはよく聞く。だが、内陸部、山間部でも災害に関係なく、長期間にわたって悩みを抱えている人は多い。親戚、知人は多くても、本当に相談できる人は少なく、社会福祉協議会も力が不足している。行政が力を入れてくれることはありがたいが、結局相談しても話を聞いてくれるだけになってしまうことがよくある。本当にかっかりしている。
41	いつもいるおじさんが見えない(一人暮らし)とか、一番は回りの人が気を付けて見守る事が大切だと思います。福祉とは(社会の成員の生活の安定とそれともなう満足感)と辞典に書いています。満足のできる生活(?)むずかしいですね。
42	出来る事は自ら進んで行う事としたい。
43	生活弱者に寄りそった支援計画のさらなる発展を望みます。職員の皆様！大変ご苦労様です。今後の御健闘を期待します。
44	設問の趣旨には合致しないと思いますので、今回アンケートの感想という事で記します。 地域福祉計画、社会福祉、福祉コミュニティ等々 福祉に関する活動(団体)が沢山ありますが、それぞれとの関連(連携)、違いが整理できません(小生の知識不足に加え勉強不足の為)、県地域福祉計画の目標は、そして社会福祉等とは、福祉の言葉は余りにも広範囲の為、問われても具体性に欠ける・・・福祉(知識)を良く理解していないのが原因です。
45	子供から高齢者まで、多様性を認め合い、心豊かに生きるための計画となるよう。県の指標「幸福度」いいです。
46	歳を重ねていくと、移動手段が一番大変ですか？紫波町はデマンドタクシーが運行していて大変助かっております。ただ予約を前の日、また当日等にするのが・・・。しかし玄関から目的の玄関までなので、本当にありがたし、ただ町内だけとしばらくある。矢巾くらいまでは行っていただけると有難いのですが。しかし値段も安いし、年金生活にはありがたい足です。
47	震災後、沿岸方面に住んでいた義母と同居して数年後、近所には同年代があまりおられなかったので、なかなか話し相手ができず、寂しそだったので、市の社会福祉課へ相談に行きました。介護認定もなかったので、週一回のデイサービスを利用させていただきました。親しい話し相手も出来て、利用できる曜日になるのを心待ちしているようです。介護認定がないと利用できないと思っていましたが、近所の人から教えていただいて、役所を訪ねてみて良かったと思っています。
48	一人暮らしの高齢者が増加する傾向にあるが、地域を問わずコミュニケーション不足の現状だと思うので、経費はかかるでしょうが、イベントや集会には直接役員等が出向いて誘い合って送迎するぐらいのことはしたほうがよい。結果的にフレイル予防と繋がると思うが・・・。役員は民生委員とは別に有償で動いてくれる人(ボランティアはなかなか集まらないでしょうから
49	近所付き合いが稀薄になってきてる昨今にもましてコロナ禍と更に地域との付き合いも狭められている状況なので地域福祉の問題は広い年代の方に当てはまる事なので、定期的に新聞広告や広報での周知させる必要があると思います。小・中・高校生には道徳の時間を使って出前授業をすとか・・・
50	114 頁もあると、さっと読むという訳にはいかなかった。ホームページが見れない人は意見が書けないのでは・・・？
51	子育て施策が、今後、国では打ち出されているが、高齢者の対策が、わかりにくくなっている。県の計画でも、高齢者に対してのよりきめ細やかな対策を明示して欲しい。
52	運転できる内は問題ないが、返納したらどうしようと、不安である。

### Ⅲ 回答者の属性

問 18 最後に、あなた自身のことについてお聞きします。あてはまるものを選んでください。

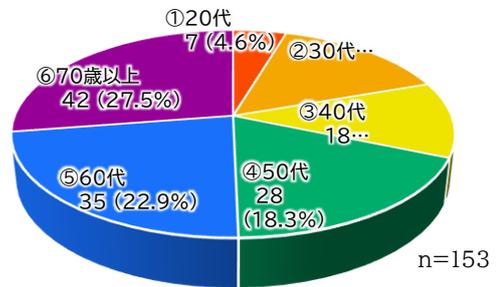
#### (1)性別

選択肢	人数	(割合)
①男	70	(45.8%)
②女	82	(53.6%)
③その他	0	(0.0%)
④答えたくない	1	(0.7%)
合計	153	(100.0%)



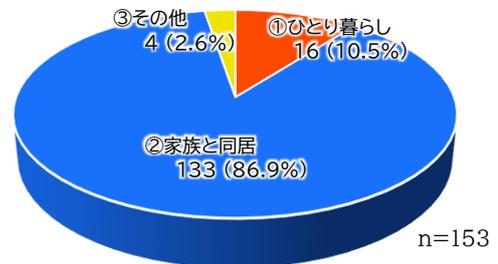
#### (2)年齢

選択肢	人数	(割合)
①20代	7	(4.6%)
②30代	23	(15.0%)
③40代	18	(11.8%)
④50代	28	(18.3%)
⑤60代	35	(22.9%)
⑥70歳以上	42	(27.5%)
合計	153	(100.0%)



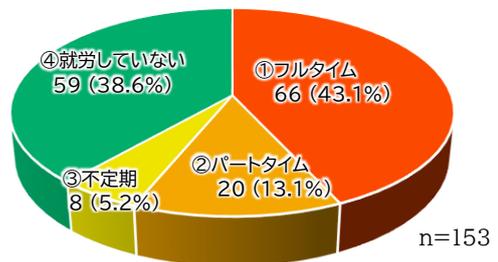
#### (3)世帯構成

選択肢	人数	(割合)
①ひとり暮らし	16	(10.5%)
②家族と同居	133	(86.9%)
③その他	4	(2.6%)
合計	153	(100.0%)



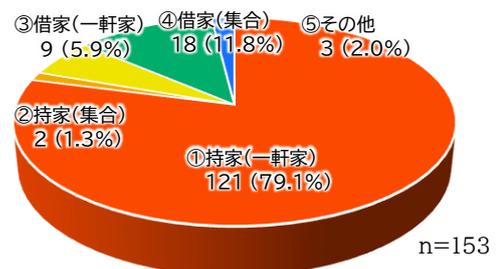
#### (4)就労の状況

選択肢	人数	(割合)
①フルタイム	66	(43.1%)
②パートタイム	20	(13.1%)
③不定期	8	(5.2%)
④就労していない	59	(38.6%)
合計	153	(100.0%)



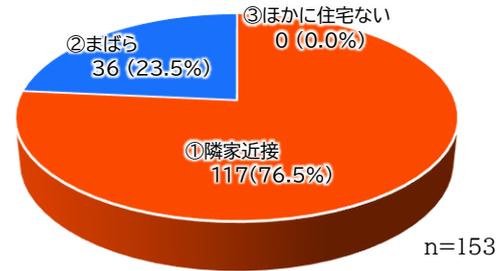
#### (5)住居の形態

選択肢	人数	(割合)
①持家(一軒家)	121	(79.1%)
②持家(集合)	2	(1.3%)
③借家(一軒家)	9	(5.9%)
④借家(集合)	18	(11.8%)
⑤その他	3	(2.0%)
合計	153	(100.0%)



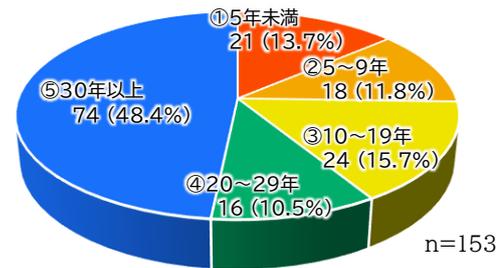
(6)住居の近隣の状況

選択肢	人数	(割合)
①隣家近接	117	(76.5%)
②まばら	36	(23.5%)
③ほかに住宅ない	0	(0.0%)
合計	153	(100.0%)



(7)地域での居住年数(通算)

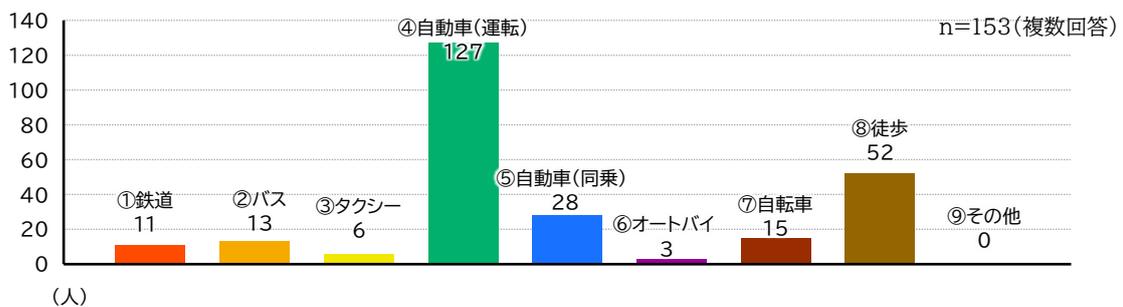
選択肢	人数	(割合)
①5年未満	21	(13.7%)
②5～9年	18	(11.8%)
③10～19年	24	(15.7%)
④20～29年	16	(10.5%)
⑤30年以上	74	(48.4%)
合計	153	(100.0%)



(8)よく使う移動手段(主なもの2つまで)

選択肢	人数	(割合)
①鉄道	11	(7.2%)
②バス	13	(8.5%)
③タクシー	6	(3.9%)
④自動車(運転)	127	(83.0%)
⑤自動車(同乗)	28	(18.3%)

選択肢	人数	(割合)
⑥オートバイ	3	(2.0%)
⑦自転車	15	(9.8%)
⑧徒歩	52	(34.0%)
⑨その他	0	(0.0%)



(9)日常の買い物や通院の便利さ

選択肢	人数	(割合)
①便利	74	(48.4%)
②たまに困る	48	(31.4%)
③やや不便	25	(16.3%)
④不便	6	(3.9%)
合計	153	(100.0%)

